

日 時：平成 29 年 2 月 16 日（木）18 時 30 分 ～ 20 時 00 分

場 所：館田地区農業推進拠点施設

対象地区：館田

参加人数：15 名

■意見交換

内 容
<p>○市の人口について (市民からの要望、質問)</p> <p>少子高齢化が進んでいる。昨日広報を見たら、平川市の人口は 3 万 2 千人であった。合併して 10 年が過ぎたが、合併したての頃は今よりもかなり人口が多かったと思う。転入と転出を見ると転入が 45 人と随分多いと感じた。非常にうれしいことで、転入が多いのは平川市が魅力あるからだと思う。市長が言った 7 つの平川らしさ、そのほかにも大いに平川市を P R して人口をもっと増やす方向に向けて頑張ってもらいたい。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・合併当初は 3 万 6 千人ほどの人口だった。平成 27 年の国勢調査では 3 万 2 千 130 人で、今はもう少し減っている。そのような流れの中では、どうしても転入より転出が多く、また、生まれる子どもの数より亡くなる人の数が多いというのが実情であり、年間平均で 300 人程度減少している。一昨年、人口減少に対応していくために総合戦略を策定した。地域に人を呼び込むため、先ほど言った暮らしやすさ、住み良さを実感できるまちづくりを基本として、現在、第 2 次の長期総合計画の策定を進めている。平川市は住みやすい地域だということをアピールしながら、転入者を増やす努力をしていきたい。・第 2 子以降の保育料無料化は 3 年前から行っており、県内でほかに行っているのは西目屋村だけである。市の持ち出しは年間 8 千万円以上だが、1 人目の子どもを産んだ若い夫婦が経済的な事情で 2 人目の子どもを産むのをためらっているケースもあるので、2 人、3 人と産んでいただきたいと思って実施している。・子育て世帯への住宅支援を平成 25 年度から行っており、平成 27 年度までの 3 年間で制度を利用した件数は 114 件、そのうち県内の市町村からは 23 件、県外からは 2 件であった。平成 28 年度は子育て世帯以外にも広げて、特に県外から転入の子育て世帯で市内の業者が建てる場合は 100 万円の補助とするなどしたところ、60 件の申し込みがあり、そのうち 28 件は市外からの申し込みであった。・平川市は弘前市と比べて地価が一坪あたり 7～8 万円と安く、また、民間業者が宅地開発を行いやすいように側溝の費用などを市が負担していることもあり、市外から随分多く移住してきている。・平成 29 年度からは弘前大学と協力しながら地域おこし協力隊の導入など、様々な方法で移住してもらおうよう環境づくりに力を入れていきたいと思っている。・青森県全体に言えることだが、地元には大きな仕事の場が少ないので、県外に出ていく人が多く、今の県人口は 130 万人を下回っている。ある程度のところで歯止めをかけるために様々な

施策、保育料軽減のほか学校教育などにも力を入れて、子育てのしやすさ住みやすさをどんどんアピールしていきたい。

○市街化調整区域の見直しについて

(市民からの要望、質問)

松崎、館田地区などでも新しい宅地が増えてきている。国の施策との関係もあり難しいと思うが、市街化調整区域を見直し、駅や学校の近くを開発できればもう少し定住を図れると思う。今は車があればどこにでも行ける。弘前のベッドタウンでもいいので、駅や学校の近くを開発に力を入れて分譲できるようにしていただきたい。

(市の回答)

- ・緩和区域を増やした中であっては、大きな開発ではなく、少しずつ開発していきたいと考えている。市街化調整区域は平川第2期土地改良区域の中に入っており、開発が難しかったが、国、県に要望してやっていただいた。市全体で31町歩である。
- ・平賀駅裏の土地は準工業地域であり、水田や農協のカントリー跡地がある。本町から宅地開発してほしいという要望があり、今までは話し合いが進まなかったが、今後、交渉して折り合いがつけば開発できる可能性はある。平賀駅裏の土地以外では、浅瀬石川土地改良区の関係もあるので新たに大きく開発するのは難しい。また、駅の裏など市街化区域であっても農地として使われている土地がかなりあるので、それを先に活用していきたいと思う。

○鳥害について

(市民からの要望、質問)

最近、さくら鳥やカラス、ヒヨドリなどによる果実の被害が多い。特にヒヨドリに困っている。去年は、さくら鳥とヒヨドリにより、黒星病以上のりんご被害があった。果実を守るため、農地に限定してかすみ網の許可などを出せないものか。農家は農薬などにかかなりの費用がかかるし、高齢化も進み後継ぎがいないため衰退していつている。

館田地区でも高齢化が進み柿などを収穫しない家もあり、実が鳥のエサになっている。春までエサに困らないのでどんどん増えている。どうにかして駆除する方法はないものか。弘前市ではカラス対策として網をかけるなど、色々やっているがあまり効果はない。弘前公園ではテグスを張るなどして、カラスが来なくなったが、その周りでは糞害がひどくなったとのことなので、やはり駆除するしかないだろう。自己防衛のために、かすみ網などなんらかの方法で駆除しなければ、自分たちの生活が成り立たなくなるので対策をお願いしたい。

(市の回答)

- ・鳥獣保護法や環境団体のこともあり、特にかすみ網に関しては非常に難しい。簡単にはいかないと思うが、何か方法がないか調べてみる。

(市民からの要望、質問)

カラスは、鷹匠を呼んで駆除できないか。

(市民からの要望、質問)

青森県には鷹匠が1人しかいない。農協から鷹のたこを買って設置したら、カラスには効いたがヒヨドリには聞かなかった。さくらんぼは網をかければいいが、ほかはそうはいかない。今売り出している津軽の桃にヒヨドリがつけば大きな被害が出ると思うので、早めの対策をお願いしたい。

(市の回答)

- ・鳥獣被害について、獣に関しては猟友会にお願いして駆除している、小さい鳥となると、非常に難しい。自分の農地でもりんご数箱分の被害が出ている。広船では音波や爆音機などで追い払っている。

(市民からの要望、質問)

爆音機は家が近いと隣近所に迷惑がかかる。

(市の回答)

- ・農家が苦勞しているのは分かっているので、どのような対策ができるのか検討させていただきたい。

○掲示板について

(市民からの要望、質問)

- ・館田には2カ所に掲示板があるが、200世帯の町会では2カ所だと足りないのでは、あと2~3カ所あればいいと思っている。市からのお知らせ、町会のお知らせなどを掲示しているが、雨風が強いとすぐ剥がれてしまうので、要望できるのであれば、風と雨の当たらないようなサッシ付きにしてほしい。

(市の回答)

- ・町会の掲示板について、市では設置していないが、宝くじの助成事業の財源を使って実施している町会はある。意見として受け止めたいと思う。
- ・掲示板に関しては、基本的にそれぞれの町会にお願いしている。全町会の分を市でやるとなれば、新たな対応となるため難しい。宝くじの助成は1年に1~2町会なので、地域づくりのために配分しているコミュニティ助成金を活用してほしい。

○融雪溝について

(市民からの要望、質問)

融雪溝について、苗生松から館田駅の線路までは水が流れて雪が溶けるが、線路の反対側は水が少ししか流れないため、入れた雪が溶けない。もう少し水を増やせないか。

(市の回答)

- ・融雪溝は、水をどこから引くかなど色々なことを決めてから、受益者が維持管理費用を負担することなどの了解のもとに設置しているので、ポンプで汲み上げる必要があるなら、管理組合で相談して対応していただきたい。

(市民からの要望、質問)

小杉から水が来ている。館田まで流れてきて駅の方には管があるが、水量が足りなくて反対側には少ししか流れていかない。2～3年前に市へ新しいポンプの設置をお願いしたが、まだ返事が来ていない。

(市の回答)

- ・流雪溝、融雪溝設置の前提として、水のことは受益者が管理することとしているが、既にポンプアップしていて水量が足りないため新しいポンプを設置してほしいとのことなので、土木課で状況を確認して連絡する。

○新庁舎の議場について

(市民からの要望、質問)

新庁舎の建設について、今までの庁舎では議場は上にあるが、新庁舎では議場を地下に作ることを提案したい。議会を開いていない時に子ども、芸能などのイベントに有効活用すればいい。

最上階には、パーラー、レストラン、展望、物産など人が集まるようなものを作ればいい。本会議場を空けておく必要はないのではないか。

(市の回答)

- ・年4回定例会を開会しており、本会議場を使う日数は、開会日、一般質問、特別委員会、最終日などで、1回の定例会につき最低5日である。それに加えて予算と決算の予算の特別委員会など年間で約30日使っているが、3権分立の観点から立法府である議会の議場を色々な用途に使用することは難しい。また、地下に部屋を作る場合、かなりの費用が見込まれる。
- ・新庁舎は29年度に基本設計を行う予定で、基本的には2階建てか一部3階建ての少ない階数で考えており、出来れば2階建てに収めたいと思っている。全国的に高齢者が多くなってきているので、市民が来庁した際にはほとんどの手続きが1階だけで済むようにしたい。これからの基本設計でどうなっていくかはまだ分からないが、今までの話の中では市民ホールを作ればいいとの声もある。災害があった時の市民の避難所としても活用できるので検討していきたいと考えている。

○フードバンクと地域の活性化について

(市民からの要望、質問)

県内では平川主体で県社会福祉協議会、市社会福祉協議会と連動してフードバンクの活動を行っている。地域の活性化が大きな狙いで、平川市を売り込むために農産物の販売など青森市でも活動しながらPRしている。平川市はどこかと聞かれることが多かったが、ようやく青森市からも平川市の産直販売所へ買いに来る人が増えてきた。

若い人を地域へ呼ぶためにあらゆる人たちと懇談しており、都会から若い人が来たいと言った時に、市ではどういう受け入れ方をしてくれるのか。どういう手段があるのか知りたいと思っている。

また、私は市外の出身だが、平川市は挨拶しない人が多い。挨拶しないと都会の人が来ても寂しい気持ちになる。明るいまちを作りたいのであれば、市全体で取り組むべきである。

フードバンクのほか、地域活性化のために NPO 法人ふるさとの会を立ち上げて色々な活動を行っており、高齢者から子どもの食事まで面倒を見ている。最近は南部からの依頼が多い。

フードバンクを立ち上げてから 10 年近くになるが、若い人が平川市に来てくれるよう、平川市にはどんないいところがあるだろうか、平川市にはどんなメリットがあるだろうかと考えて平川市を PR するために色々と検討してきた。農産物はいいものが揃っているが、あまり知られていない。

まちづくりの中でフードバンクがあるということを知ってもらいたい。野菜などをもし捨てるのであれば、フードバンクに提供してほしい。貧しい人を救うにはただお金をあげればいいわけではない。このような団体があると知ってもらい、災害時にどのように連携できるのか検討いただきたい。

(市の回答)

- ・ 広範囲にフードバンクなどの活動をされているとのことで、これからも続けていただきたい。農産物のロスも多いが、食品ロスも非常に多いので、宴会の最初の 30 分と最後の 10 分は座って食べて捨てるものを少なくしようという 30・10 運動に取り組んでいる自治体もある。生活困窮者が増えてきており、フードバンクなどを活用しながらお互いに助け合っていく地域社会を作っていかなければならないと思っているので、災害時のみならず連携できるのであれば、相談しながら検討していきたい。
- ・ 都会から平川市へ来た時のメリットとしては、住宅支援や新規就農者支援など様々な支援を行っており、他のところにはない支援もあると思うので相談していただきたい。
- ・ 平川市は青天の霹靂のみならず、米の種場であるほか、りんごに関しても品評会で大臣賞を続けて受賞しており、品質では一番の地域だと思っている。また、桃も平川を中心に津軽の桃として売り出しているほか、高冷地野菜もあり、いい農産物がとれる地域である。それらをロスしないですぐ使えるよう、フードバンクとの連携などを検討したい。

(市民からの要望、質問)

津軽は災害が少ないということを知っている人が少ない。あちらこちらで災害があるのにここだけはほとんど災害がない。ただ、冬は雪が降るのでそれがもったいない。冬の農業をなんとかしようと色々な人と話したが中々いい手がない。農地が眠っているわけではなさそうなので、状況を伺いたい。

(市の回答)

- ・ 農地は農業委員会で流動化などをやっているなので、相談していただきたい。アグリアスに関しては、青森市でもずいぶん評価が高まっている。ふるさと納税に関しては、去年は 1 万 2 千

件、1億6千万円の寄附があり、今年は12月末時点で2億6~7千万円、3月までに3億近くとなる見込みである。返礼品には米などもあるが、ほとんどの人がりんごを選択しており、りんごの評価が高い。食べておいしかったということで、個人的に農協から買っている人もおり、大きな宣伝になっている。

- ・自然が豊かで優れた農産物があるということ、また温泉も22カ所あるということ売りしながら観光振興を図っていきたい。
- ・まち全体で挨拶が少ないとのことだが、人とのふれあいは挨拶から始まるので、できるだけみんなで挨拶をするような地域づくりが大切だと思う。職員に対して挨拶は徹底するよう一番始めに言わせていただいた。以前は公民館活動がさかんであったが、今は停滞しているのもまた復活させたいと思っている。全国の中での平川市を目指していきたいと思うので、連携しながら取り組んでいきたい。

(市民からの要望、質問)

浪岡地区で経営している店では平川りんごは高くても弘前市りんごより売れる。他の地区りんごは出さないでほしいと言われる。北京から来た学生に平川市りんごを食べさせたら、北京で売りたいとの話もあった。桃があるということに驚いたが、収穫量はどれくらいなのか。

(市の回答)

- ・量的には多くない。津軽みらい農協管轄の津軽の桃は、8月初めから9月下旬まで、非常に品質のいい数種類の桃が時期をずらして収穫できるため、市場評価が高く、供給量が追いついていない状況である。桃は摘果を多くする必要があるが、りんごと違い1段階めなので高齢者でも運びやすい。今後どんどん増やしていきたいと思っている。

○県民駅伝の成績向上について

(市民からの要望、質問)

平川市は駅伝が弱いと思う。新しい陸上競技場ができるので、これから順位を上げるよう選手を集めて頑張ってもらいたい。指導員が不足しているとも思っている。

(市の回答)

- ・県民駅伝の順位が上がらなくて残念に思っているが、市外から選手を連れてきて強化するわけにもいかない。新しい陸上競技場はタータンなので雨でも練習できるので、陸上協会へ強化に向けて頑張ってもらおうよう伝える。

○生産組合のダンプ、トラックの排雪への活用について

(市民からの要望、質問)

生産組合のダンプやトラックは冬場に空いているので、排雪に使えるか。農家の冬の収入につながると思うので、排雪に使えるか。

(市の回答)

- ・平川市では基本的に排雪しないことにしているが、危険な場所を行っている。この間行った排雪では、1回で3千万円の費用がかかった。提言の検討にあたっては、ダンプの台数などを調査する必要があるので土木課と相談して連絡する。